

議 会 だより



小豆島町

No.43

平成29年2月1日 発行



小豆島高校として 最後の都大路

平成28年度 全国高等学校駅伝競走大会

- 審議議案
定例会について…………… 2
- 一般質問
10名の議員が質問…………… 4
- 中学生議会……………11
- 住民の声・町の力……………12

新春の

ごあいさつ



小豆島町議会
議長 森口 久士

謹んで新春のお慶びを申し上げます。日頃から議会に對しまして温かいご理解とご協力を頂き、心から厚くお礼申し上げます。

本年度は高校の統合を控えており、小豆島の教育において、大きな分岐点を迎えるようとしています。

私達町議会議員は「町民目線に立つた議会の運営」を基本に、皆様の期待に応え、積極的に議会活動を進めてまいりますので、よろしくお願いたします。

- 議員 大川 新也 坂口 直人 中松 和彦
松本 智 谷 康男 柴田 初子
藤本 傳夫 森 崇 安井 信之
秋長 正幸 鍋谷真由美
中村 勝利 浜口 勇

12月 定例会

第4回定例会が12月14日・15日に開催され、平成28年度の補正予算議案が2件、条例案件7件、契約案件1件、人事案件1件その他案件6件と議員発議が1件可決され、委員会報告が3件ありました。また、決算特別委員会に付託した「平成27年度決算認定」については、決算特別委員会委員長の審査報告の後、採決を行い、賛成多数により認定しました。

一般会計 追加補正予算額 4億1,094万円

審議した主な議題

補正予算

一般会計（第3号）
主な内容

総務費

電算システム改修
委託料
621万円

税制改正に伴うシステム改修委託料です。

民生費

臨時福祉給付金等
事業費
6,649万円

平成31年10月に軽減税率が導入されるまでの2年間分について、低所得者に対する負担軽減措置として、一括支給するものです。

衛生費

老朽危険空き家等
除却支援事業補助金
800万円

却について、当初見込んでいた件数よりも申込件数が多かったことによる追加の補正です。

徳本地区埋立処分地
法面整備工事
1,634万円

現在の徳本最終処分場の工事について、人件費等が高騰したため追加補正です。

土地購入費
2,751万円

次期最終処分場用地購入のための費用です。

農林水産業費

木下池（苗羽地区）
防災対策工事
170万円

受益がなく、老朽化も進んだ木下池の埋立を行うおとするものです。

商工費
四国DC小豆島誘致
実行委員会負担金
150万円

大阪、東京で行われる「四国デステイネーションキャンペーン」小豆島観光商談会」の実行委員会に対する負担金です。

二十四の瞳映画村旧みさき屋改修事業補助金
1,000万円

映画村内にある旧みさき屋を展示ギャラリー

1に改修するための補助金です。

土木費

橋梁長寿命化
点検業務委託料
361万円

町内2m以上の橋についての点検委託料です。

道路新設改良費
485万円

町道蒲野沖田線の県道接続部の改良工事費用です。

一般住宅リフォーム
推進補助金
340万円

住宅リフォームの補助金について、申し込み数が、想定を上回ったことによる追加の補正です。

植松都市下水路
再整備工事
2,112万円

安田植松の下水路の管渠工事についての工事請負費です。

消防費

小豆地区広域行政事務
組合負担金

1,454万円

池田港の埋立地に救急患者を搬送するためのヘリポート造成工事と、薄明時のヘリの発着用簡易照明機器の整備費用の町負担金です。

教育費

三都活性化施設

建設工事

1億9,108万円

三都ふれあいセンタ1等を(株)レクザムに売却するため、新たに公民館が必要になったことに対する設計及び建設費用です。

災害復旧費

平成28年発生災害町道

市神子吉ヶ浦線

復旧工事

2,040万円

台風16号により被害にあった路線の復旧工事費用です。

その他審議事項

人権擁護委員の推薦

現在、人権擁護委員として活躍されている熊坂泰忠氏が平成29年3月31日をもって任期満了となるため、中山知子氏の任命に同意しました。任期は平成29年4月1日～平成32年3月31日までです。



中山 知子 氏
(福田)

財産の処分

三都ふれあいセンタ1及び三都公民館について、(株)レクザムに売却することに同意しました。4,291万円

物品購入契約

町営バス購入事業

契約金額

2,002万円

契約相手方

小豆島マツダ(株)

用地の取得

次期最終処分場用地面積

3万4,140㎡

取得予定金額

2,751万円

指定管理者の指定

小豆島うちのみ漁師村の指定管理者について、(資)寺下広告社が引き続き指定管理者を行う事が議決されました。指定の期間は平成29年4月1日～平成34年3月31日の5年間です。

条例

小豆島町重度心身障害者等医療費支給に関する条例の一部を改正する条例について
小豆島町子ども医療費助成に関する条例の一部を改正する条例について

小中学生の重度心身障害者に該当する者の医療費について、窓口負担を無料化することにより、一時支払いに

伴う手間と経済的負担を軽減することを目的としています。なお、施行は平成29年8月1日からです。

※その他の一部改正条例

・小豆島町職員の給与に関する条例

・小豆島町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例及び小豆島町特別職の職員で常勤のものとの給与及び旅費に関する条例

・小豆島町特別職の職員で非常勤のものとの報酬及び費用弁償に関する条例

発議

地方議会議員の厚生年金制度への加入を求め意見書

地方での議員のなり手が不足し、定員割れも起きているので、人材確保のために厚生年金制度へ加入できるように法整備を要望するものです。

委員会活動報告

決算特別委員会

平成27年度小豆島町歳入歳出決算認定については、平成28年10月25日～27日にかけて審議を行いました。審議の結果「補助金の支出について、各種団体に対する補助金について、所期の補助目的や事業効果について、検証し適切な執行に努められたい。」との意見を行っております。

教育民生常任委員会

平成28年9月27日、11月11日、11月24日の3回委員会を実施しました。それぞれの案件に対して次のように意見を提出しました。

「これからの学校のあり方について」
・地域住民・保護者等関係各位から意見を聞いてもらいたい。

・今ある学校のデメリツトの部分をかちんと説明し、理解されるよう努められたい。

・早急に県と協議をし、土地を確保願いたい。
・周辺の交通アクセスの為、早急に拡幅等検討されたい。

「次期最終処分場の建設」

候補地の変更に同意をする。早急に地元関係者・所有者との協議に努め、次期最終処分場を決定願いたい。

「改良住宅の現地視察」

・施設の不良等については、入居者の生活に支障が出ないよう十分配慮願いたい。
・貸主として法的にどのような義務・権限があるか調査願いたい。
・耐用年数を考慮し、早急に建て替え計画を地元協議のもと進められたい。

・耐用年数を考慮し、早急に建て替え計画を地元協議のもと進められたい。



谷 康男 議員

瀬戸内海の復権 「水産資源」について

町 「住民も参加した実証研究に、
来年度予算から取り組みたい。」

質問 瀬戸内海区水産研究所の報告によると、近年の瀬戸内海での漁獲量は年々減り続けている。特に藻場や干潟の消失により、これらの場所を利用するアサリや車エビの漁獲量の減少が著しいとの報告

がある。小豆島においても同様である。町として研究機関等と連携して、小豆島沿岸における藻場の復活とアサリの増殖等、漁業者だけではなく町民も参加できる研究、実証実験ができないか。

瀬戸内海の復権「航路」について

町 「事業者が決断をできるように

我々がまず努力することが大切である。」

質問 神戸三宮から高松までの明石、大鳴門橋を含めた道路建設費用はおおよそ、1兆2,000億である。その建設費の1%の予算で、高松・小豆島・神戸航路の船舶の建造ができる。道路予算の1%で航路の維持ができる

という計算になるが町長の考えは。

答弁 道路法の中でフェリーポートも道路であるという定義がなされている。航路について国土交通省が国庫補助した例がある。前例があるので小豆島・神



戸間のフェリーについても国庫補助を受けうる可能性はゼロではない。航路事業者が新造船を決定しないと議論が始まらない。決断できるように我々がまず努力することが大切である。



柴田 初子 議員

引きこもり支援について

町 「課題が実現するように
研究努力する。」

質問 地域に存在する引きこもりを早期に見し適切な支援機関につなぎ、継続的な相談支援によって本人の自立を促す引きこもりサポーター養成事業がある。支援を希望する本人、家族にサポーターを派遣するのは市町である。

- ① 本町の引きこもり者数は。
- ② 相談窓口の設置の有無と担当者は。
- ③ 町にサポーターはいのか。又サポーターの受け入れについては。

答弁 引きこもりは、本人、家族ひいては町全体にとっても、とて

も深刻な課題である。① 引きこもり世帯数は推計35世帯。実質はつかんでいない。② 小豆総合事務所では保健福祉課に窓口を置き、精神保健福祉士が対応している。町は健康づくり福祉課が窓口となり、障害福祉担当職員と保健師で対応している。③ 島内にサポーターは1名いる（土庄町在住）。相談体制の充実している専門機関と密接な連携を図り迅速で適切な支援をする。温かいメッセージが当事者とその家族に届くまで発信し続けていく。来年以降に特別支援





坂口 直人 議員

災害時の備蓄について

町「保管場所の選定、後の管理も

検討した上で決定していきたい。」

質問 近年、各地で大きな地震が起きている。現在の災害時における備蓄の内容、量、保管場所の状況は。

答弁 最大クラスの地震が冬場の深夜に発生した場合、4,080人の避難を想定している。発生直後3日分の食料のうち1日分の物資として、食料や飲料水、防寒用毛布などを備蓄している。残りの2日分は食品流通業と協定を結び、大手スーパーなどから提供がある。備蓄の内容は粉ミルク、生理用品、大人・子供用の紙おむつが目標数に達しているが、

食料、飲料水、毛布については達しておらず、来年度には目標に達する予定である。食料及び飲料水は、保存期限があるので、計画的な備蓄をしていく。保管場所は、内海地区は小豆島中学校の備蓄倉庫、池田地区は池田保健センター1階に保管している。

質問 災害時、孤立する恐れがある福田、三都半島、坂手などの道路が寸断された場合、地域に備蓄がないと困ると思うが。

答弁 道路が寸断されることも想定できる。県も、できるだけ避難所、またそれに近いところで備蓄するということにかわってきており、本町も、同様である。ただ保管場所の選定、後の管理も検討した上で決定していきたい。



備蓄倉庫の様子（小豆島中学校体育館）



浜田 勇 議員

新たな町民憲章を

町「いろいろな考えを教えてもらい、

雰囲気作りが大事ではないかと思う。」

質問 小豆島町になって10年が経った。塩田町長の島への深い思いが、

- ・新病院の開院
- ・新高校の開校
- ・芸術祭の開催
- ・バス運賃・路線の改訂
- ・甲子園出場
- ・男女の全国高等学校駅伝大会出場
- ・幕内で活躍する琴勇輝関
- ・映画「八日目の蟬」などの芸術部門への支援など

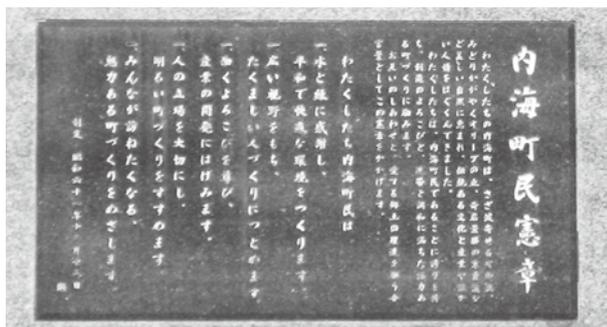
行政手腕を大いに発揮しており、小豆島町はキラキラと輝いている。しかし、一般住民は

いかなる心がけで毎日 を過ごせばいいのか。未来に向かって希望を持って毎日を過ごせる心の指針が持てれば更に住みよい町になるのではないか。

うが島民憲章にした方がいいとも思われる。いずれにしても皆様でまず議論をしていろいろな考えを教えてもらい、雰囲気作りが大事ではないかと思う。

答弁 昭和61年に制定された内海町民憲章は教育と文化に輝き緑と海に恵まれ、豊かで住みよい町の建設との理念で町民の普遍的な精神的規範としていた。

今小豆島全体のあり方が大きく変化しているこのタイミングで小豆島町民憲章との提案は良いと思



内海町民憲章碑

一般質問



中松 和彦 議員

ふるさと納税の活用について

町「今後の各種事業へ有効に活用してゆきたい。」

質問 ふるさと納税による収入は、税収の確保に悩む地方自治体にとっては大変有難いものだ。小豆島町におけるふるさと納税による収入は今後どのようにして町民のために活用してゆくのか。

答弁 平成27年度には4,224件、1億円余に上る貴重な寄付を頂いた。寄付の申し出の際には希望の用途を5項目に分類し、意向を確認している。謝礼品の費用を除いた額を一旦ふるさとづくり基金へ積み立て、今後の各種事業へ有効に活用してゆきたい。



質問 町の高齢化率を踏まえ、先を見据えた対策をとっていく必要がある。行政がボランティア団体に人的、資金的に関与していくべきでは。

答弁 高齢者のパワーをボランティア活動にどう生かすか、小豆島町にとつとでも大きな政策のポイントだ。ボランティア活動については、今は審査をして、助成をするというやり方が中心になっているが、町の方針を示した上で、優先的に助成するといった方向



安井 信之 議員

町の魅力づくりへの取り組みについて

町「優先的に助成するといった方向に転じてもいいと考えている。」



景観保全 (池田の棧敷)

空き家対策について

町「地域の実情にあった有効な活用を今後目指したい。」

質問 空家の有効利用に関する補助制度は移住者の方々への重要な支援であり、また老朽危険空家に対する補助制度も住環境保全に對し有効な手段となっている。補助制度の対象

範囲をもっと柔軟に拡げられないか。柔軟に対応している。また、危険空家除却後の活用は所有者・自治会と協議し、地域の実情にあった有効な活用を今後目指したい。

答弁 申請で多いのはトイレや家屋内装の改造、家財の処分、更には庭木の伐採・整地などで、予算の範囲内で

健康づくりに関する新たな取り組みについて

健康づくりに関する新たな取り組みについて

町「担当課で早速検討してもらいたい。」

質問 健康マイルド制度の検討を考えては。

答弁 健康であるというところが何よりも重要な政策テーマである。小豆島中央病院が島の健康づくりに貢献をする、そして回り回って医療費や介護費用が抑制される。それで健康マイルド制度には賛成だ。いろいろ健康づくりと関連づけて点数化し、健康づくりに努めること。健康にもなり、町全体、島全体にも貢献するということ機運をつくる



大川 新也 議員

どうなっている、

病院跡改修工事

町「議会への説明が

不十分であった」

質問 今病院跡改修工事が粛々と進んでいるが、庁舎問題特別委員会で庁舎位置変更の同意、改修工事スケジュール、各課の配置図面説明は受けた。しかし各課位置等協議、老健・特養の事業計画内容について説明・協議はされていない。

また、介護スタッフ等募集も始まっているようだが、どうなっているのか。

答弁 小豆島町誕生以来の課題であった分庁舎方式による行政効率の悪さを克服するとともに、病院跡地の有効利用を図れることは、有益なことである。指

摘のように各課の配置や福祉施設の配置あるいはその考え方の議会への説明が不十分で配慮がなかったと思う。反省する。

庁舎内配置の考え方は、今回の整備は改修工事で2つの建物を2年間かけての改修となる。今回は病院跡地の1階部分、内海庁舎本館にある機能が移転する。住民の利用される機会の多い課で非常にお互い関連が深く、1階フロアで全て対応できる形でワンストップサービスで、住



改修工事中の旧内海病院

どうなる、

高橋旅館焼け跡の今後

町「時間はかかるが、

解決に努力を続ける」

質問 高橋旅館焼け跡については、幾度と経過を聞いてきたが、10月に放火の主犯格が逮捕、11月に起訴された。火災後7年が経過、この秋も多くの観光客が寒霞溪を訪れたが、全ての人があの見苦しい焼跡を見ている。ついては今後どのような対応が期待できるか。

また、強制執行まで時間がかかるのであれば、倒壊・残存物の飛散防止等に防護柵の設置は考えられないものか。自治会が対応しなければならぬのか。

答弁 焼跡については、何とかしたいという、気持ちはない。なかなか打つ手がなかったが、昨年空き家等対策特措法が施行され、手順を踏



丸7年経過した旧旅館跡

んでいくと対応できるような道筋ができた。設置した空き家対策協議会にて社会的影響の大きい重要な事案は具体的対策の実施について協議する。

防護柵に関しては、本来は所有者が措置すべきだが、県道管理者の県と可能性の検討をしたい。

質問 先日住民より職員の挨拶ができていないと苦情があった。挨拶の励行は人として一番大事ではないか。どのような職員教育をしているのか。

答弁 住民の方には申し訳ないと思う。人として挨拶するのは当然のことだ。町長を含め、ちゃんと挨拶ができるようにしたいと思う。

新採職員は初任者研修にて接遇についても研修している。業務に慣れるにつれ、接遇が疎かになっていいると思われる。今後職員に対して挨拶の励行を周知徹底する。

確認 やはりこれはトップ(町長)が進んで元氣よく挨拶をして、職員に手本を見せてほしい。

職員の挨拶励行は、

できているのか

町「町長含め、挨拶ができるよう努める」



松下 智 議員

次年度のプレミアム商品券の

継続方針は

町「地元商店の活性化には重要であるが、実施には諸問題の解決が必要」

質問 プレミアム商品券の発行の目的は、

- ・地元消費の喚起と消費の拡大
- ・地域商業の活性化
- ・町内経済の振興

などが考えられる。

商品券発行の目的達成を思うと、この事業が単年度でなく、継続的な事業でなければ、住民意識としての消費喚起効果や、新規の消費誘発効果などが果実として現れることはない。重要なことは、継続することが目的達成の不可欠な要素であると考ええる。

①今年度の当初予算では、プレミアム付き

商品券で計上していた

のが、なぜ取り止めたのか。再度、理由を確認したい。

②今年度発行の反省点と今後の課題点は。

③次年度以降の実施方針とその方法は。

答弁 ①・②・③前年度に発行したプレミアム商品券の成果として、地元消費の喚起と消費の拡大や、町内経済の振興に効果があったと思っている。

しかしながら、27年度の商品券の発行に当たっては、公平性の問題や商工会の体制の問題など、多くの課題が



明らかになったことから、今年度のプレミアム商品券の発行は困難と判断した。プレミアム部分が無いことから利用者も少ない点もあると考えている。次年度以降については、町議会の意見や商工会との協議・検討を行ったうえで、諸課題に見通しが立てば考えたい。

国道拡張と中・高校生の

通学用自転車歩行者道の整備計画は

町「国道436号整備促進期成同盟会を通じて、粘り強く要望する」

質問 小豆郡内の国道

整備は、高校統合に合わせて逐次実施されているが、西村地区内の一部地域の整備計画を問う。

①西村地区の国道拡張の要望(鬼ヶ崎、片山水産の間)は、道路幅が狭いため、県土木への要望書提出(過去2回)から20年

近くなると聞き及んでいるが、現状の計画案は。

②通学用の自転車道

は未整備の状況にあり、新たな課題が生じている。来春からの中学生と高校生の自転車通学は、一方通行ではなく対面通行になる

が、国道拡張の要望とともに解消策はあるのか。

答弁 ①・②国道436号の整備については、

中央病院の開院や中央高校の開校等により、島内の交通体系が大幅に変化しており、

県土木の優先順位・予算枠の制約・設計段階での協議不調等々から着手ができていないという状況であるので、引き続き「整備促進期成同盟会」を通じて、国・県に要望活動を続けたいと考えている。

整備の重要性が増したと考えている。質問の区間をはじめ、国道の自転車通行環境などは、十分とは言えない状況は承知している。

指摘の区間整備については、



国道の様子

ヘルスツーリズムの実施を

町「魅力的なプラン検討する」



鍋谷真由美 議員

施をしてはどうか。

質問 健康維持・増進

を目的とした観光旅行、ヘルスツーリズムに関する取り組みが全国各地で行われている。自然豊かで、オリーブによる健康づくりを行っている本町にふさわしい取り組みだと考える。

小豆島中央病院での人間ドックを組み合わせる国民宿舎小豆島での宿泊・ヘルシーな食事・健康ウォークなど、ヘルスツーリズムの検討・実



国民宿舎「小豆島」でヘルスツーリズムを

答弁 小豆島中央病院で人間ドックも始めていますが、まだまだ体制が整っておらず、まず病院の基盤をきちんとしたい。ヘルスツーリズムは魅力的なプランだと思うので、引き続き検討させていただきます。

児童館設置など子育て支援の拡充を

町「児童館設置は難しい」

質問 児童館は、子どもたちが楽しみながら

いろいろな体験をし、知識を身につけ、明るく、たくましく育つことを目的とする施設であり、乳幼児親子が自由に遊び、集う場でもある。雨の日の遊び場の要望も多くあり、専門職員がいる児童館が必要だと思うがどうか。

「すくすく子育て応援アクションプラン」には誰もが集まれ遊べる屋内広場として2施設で実働、残り2か所整備するとあるが実態は。

18才までの医療費無料化の検討・実施はどうか。

児童扶養手当は、ひとり親世帯で育つ子どもの生活を安定させる

ための手当だが、4カ月分がまとめて支給され、収入が不安定で管理が非常に難しい問題がある。明石市で検討している児童扶養手当の毎月支給はできないか。

答弁 児童館を設置し、職員を配置することは非常に難しい。坂手の遊児老館や草壁本町の旧JA草壁支店を整備した

が、取り組みは不十分な状況。地域で中心となって活動されている方にご協力をお願いしたい。残る2カ所は池田と安田校区になる。保護者の要望を十分聞

の要望を十分聞



日常的な利用が望まれる遊児老館（坂手）

き、場所の検討と中心となって活動、ご協力いただける方への働きかけを行っていく。医療費無料制度は本来、国、少なくとも県一律で行うべきと考えられており、現行制度を拡充する考えはない。児童扶養手当の毎月支給は、相当難しいと思うが、明石市の取り組みを勉強したい。

国保、介護の負担軽減策を

町「新たな軽減策は困難」

質問 アベノミクスによる格差と貧困の広がりと医療・介護・年金の制度改悪など町民の

くらし・福祉に深刻な影響を与える国の悪政から町民のくらしと福祉を守るために、国保税・介護保険料・利用料の引き下げ・減免など、負担軽減策を

考えは。

答弁 国保は、財政運営悪化で、一般会計からの繰り入れを行い、介護保険は、介護給付費準備基金を取り崩して負担軽減に努めており、新たな負担軽減策は困難。



森 崇 議員

猪の急増と私達の

取組について

町 「ガイドラインは非常に厳しい衛生管理だが法的には可能と聞いている。」

質問 最近の猪の急増に合わせ町は里村共生室を作ったと思う。木庄地区も講演会4回・柵づくり4回行った。最初の捕獲（平成21年）に比べ615匹は約70倍にもなっている。12月の四国新聞には猪が県全体で2万9千頭と予測され毎年1万2千頭の捕獲が必要と記載され、町広報の「八日目の蟬」には野生動物対策技術会全国大会が小豆島で開催され町長は「平成の猪鹿垣を築くことができるのか」と結ばれている。確かに町の対策は遅過ぎると思う。ある町民から「野菜や魚や牛や豚も人間が食べて生物が成仏している。猪も殺すだけではいけない」

と言われた。農業新聞にジビエ料理の店が881軒、5倍に増え四国新聞では「高松一高のグラウンドで猪を確保」と報道された。ここまで来ると町民の起ち上がりが必要だ。町もジビエを取り入れたらどうか。

答弁 猪は急激な増加傾向にあり狩猟免許取得者を増やしているが

減少傾向に転換していない。本年度11月の捕獲数は猪867頭（100倍）、猿147頭、鹿600頭だ。ジビエは全国的に広まって猟友会の視察も検討を進めている。国・県策定のガイドラインは非常に厳しい衛生管理だが法的には可能と聞いている。民間サイドの取り組みや応援を研究したい。



住民を守るための猪柵作業です。

小学校統合案の

不安について

町 「今年中の結論については一つの目安だ」

質問 塩田町長になつてあらゆることが前進したことは町民が認めるところだと思ふ。しかし方針に不安も感じたりおり教育委員会がどんな考え方で同意されたのか聞きたい。

「私は学校教育課の要請で学校の視察に参加しているがどの学校も素晴らしい生徒も

だ。説明会も町が長く住民の質問時間が短かったと思う。トップダウンもボトムアップも両方に必要なのは民主主義だ。出席者は町全体で3%にも満たない。もっと考えるべきでは。」

町 「休める時は休んでリフレッシュしてもらいたい」

質問 電通の過労自殺でも問題になったが働き過ぎはいけないと思う。町の年休消化の実数を知りたい。年休を申告しやすい職場環境にすべきでは。

答弁 職員には休める時は休んでリフレッシュしてもらいたい。

9月までで昨年は4・7日。今年は4・8日です。不十分だ。取りやすい職場環境に努めたい。

「また学校統合について教育長は住民の反対はなかったと言われたが反対と言うほど間違っていないが「どうなっているのか解らない」のが本当のところ

各校長からも「ある程度の規模が必要だ」と要望があった。12月の教育民生常任委員会と総合教育会議でもさ



小豆島町

「町長・教育長に質問！」

10月3日、小豆島中学校の生徒10人による、中学生議会が開かれ、町政に対する質問を行いました。



ふじわら かな
藤原 可奈 議員

質問 若い人たちの中で介護する人を増やすために考えていることは。

答弁 修学資金の貸付事業、介護職員の研修の受講料に対する助成金の制度を設けている。



ゆ かわ りん
湯川 凜 議員

質問 一人暮らしのお年寄りに対する対策は。

答弁 配食サービスや軽度家事支援サービス、また、公民館などで健康づくりや介護予防を行うサロン活動の支援をしている。



たちばな けん と
立花 健人 議員

質問 池田に病院が出来、通院時間がかかるようになったが、その対策は。

答弁 診療所をつくり、再診者の受け入れと、巡回診療を行っている。また、バス路線やダイヤの再編も行った。



ほん だ そういちろう
本多宗一郎 議員

質問 新高校には、自転車で通学したいが通学路の整備の今後の予定について。

答弁 時間が長くなる工事であるが、安心して通学できるよう努力をしているところである。



おか なな み
岡 奈々夢 議員

質問 スクールバスについて、中学では運行しているが、高校ではないのか。

答弁 他の高校と比較し、スクールバスの運行は難しいので、交通費の助成の検討をしている。



さかした み さ き
坂下美沙紀 議員

質問 小豆島町内の小学校は統合されるのか。また、統合の時期はいつか。

答弁 年内には方向性を決めたいと考えている。小学校の統合は時期は早くても5年後である。



はせがわ まなか
長谷川真可 議員

質問 地震や津波の災害に対するすべきことは。また、町の備えは。

答弁 話し合う機会を持ってほしい。町としては避難箇所の整備や備蓄の準備を行っている。



ひら み とも き
平見 知樹 議員

質問 災害が起きた時のマリアの園などにいる高齢者の避難方法について。

答弁 各施設において定められた避難計画と、防災関係機関の合同訓練を行っている。



たか ぎ しょうえい
高木 照瑛 議員

質問 イノシシが急激に増えていると聞くが、その対策は。

答弁 出てきにくい環境づくり、防護柵の設置、捕獲体制の整備を行い、被害を減らそうとしている。



たけ だ あ と む
竹田亜斗夢 議員

質問 小豆島には若い人が行く店や仕事をする場所が少ないがその対策は。

答弁 各産業の競争力強化のための支援を行っており、奨学金制度の実施も行っている。



「今。やれる事を やっておこう」

福本 一 男

(室生自治会 会長)

室生自治会は、弁天島を沖に、世帯数175戸・人口380人・5つの地区で形成されています。小豆島ふるさと村がある地区です。

主な事業としては、毎年7月第一土曜日に弁天・夏祭りを催しております。島内はもちろん、観光客の参加も見られます。是非一度お立ち寄り下さい。私の知る範囲でも65年以上続いております。

自治会として取り組んでいますことは、町行政もご理解を頂き、若い人達と力を合わせ、『お助けマンクラブ』を組織してお手伝い等実践しています。

その他、自主防災訓練、盆踊りの復活や、現在維持管理が困難になっている地区内の神々の合祀の為、神社の整備事業に取り組んでいます。私たちは「今。やれる事をやっておこう」が大切と考えております。次の世代のために……

島で生まれ育った事に感謝しながら頑張っております。



室生地区の風景

現在では、地域の清掃活動や内海八幡神社で行われる年4回の行事のときの高張り提灯の出し入れと、元旦の縁起物の販売、2月の節分祭での豆まきの準備、7月の菅宮では夜店の出店等をさせてもらっています。また、夏に行われる金羅明神祭では馬木自治会と共に準備から当日の運営まで携わっています。

地域の核家族化、高齢化の進む中で、世代を超えて関わる事の出来る場所(事)が必要と考えていたとき、馬木ひしお会は、地元



会長 照下博之
問い合わせ先
☎090-3183-3544



歴史ある場所を守り、伝統ある行事を継承していく事を目的として、2005年6月に発足しました。発足当時は何か新しい事をするというよりも、日常として当たり前のように有った事柄を、自分達が手伝う事で呼び覚ましていこうと活動していました。

2013年に行われた瀬戸内国際芸術祭がきっかけとなり、馬木住民による「ご近所映画クラブ」を立ち上げ、2013年から現在まで3本の自主製作映画を撮りました。上映会には地域の人に集まってもらい、楽しく交流の出来る場作りも行っています。

これからも次の世代に繋がるような活動を積極的に行っていこうと思います。

編集後記

もう五十年ばかり前の夏、友人を訪ねて中山へ行ったことがある。こんな山奥に人家があるのだろうかと思いつつ、自転車で細い山道を小一時間。峠のトンネルを抜けると山あい広がる集落の光景に心から感動した。

昨秋、初めて中山農村歌舞伎を観る機会を得、その素晴らしさに大変驚かされた。よくぞ今日まで受け継ぎ伝えて頂けた。関係者のご努力には頭が下がります。

何事も続けるということは大変だ。続けてこそ光り輝くものもあるという事を肝に銘じよう。

まずは「議会だより」から。

中松 和彦 記

議会を傍聴しませんか。

次回定例会の予定は

2月下旬

です。

なお、小豆島町議会に政務活動費制度はありません。